

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	使用条件	べと病	白さび病	白斑病	菌核病	黒斑病	炭疽病	根こぶ病	根くびれ病	ピシウム腐敗病	黄化病	苗立枯病	尻腐病	黒斑細菌病	軟腐病	黒腐病
ベジキーパー水	生物農薬	-	*d	-	-															◎	◎
マスタピース水	生物農薬	-	1	-	-															◎	◎
アミスター20FL	Q o I	11	7	4			◎	◎	◎		◎										
スクレアFL	Q o I	11	1	3					◎												
ストロビーFL	Q o I	11	3	3			◎		◎		◎										
ファンタジスタ顆水	Q o I	11	3	3					◎	◎	◎										
メジャーFL	Q o I	11	3	3			◎	◎	◎		◎										
アフエットFL	アミド	7	1	3					◎	◎	◎							◎			
レーバスFL	アミド	40	7	3			◎														
バリダシン液5	抗生物質	U18	3	3															◎	◎	
ポリオキシシンAL溶	抗生物質	19	7	5							◎										
ロブラール水	ジカルボキシイミド	2	14	3				◎	◎	◎											
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1	7	2				◎	◎		◎										
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1	7	2				◎	◎		◎										
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3	30	1			◎		◎		◎										
ペンコゼブ水	有機硫黄	M3	30	1			◎		◎		◎										
キノンドーFL	有機銅	M1	30	5																◎	
オーソサイド水80	他	M4	7	5			◎		◎		◎	◎					◎				
エトフィンFL	他	22	7	3			◎							◎							
オラクル顆水	他	21	*c	2										◎							
オラクル粉	他	21	*a	2										◎							
オリゼメート顆水	他	P2	*e	1	☆										◎				◎	◎	
スターナ水	他	31	7	3															◎	◎	
ダコソイル粉	他	M5	*a	1										◎	◎						
ダコニール1000FL	他	M5	7	2			◎	◎	◎		◎										
ネビジン粉	他	36	*a	1										◎							
ネビリュウ粉粒	他	36	*a	1										◎							
パレード20FL	他	7	*f	1	☆													®			
ピシロックFL	他	U17	3	3			◎	◎													
フェスティバル水	他	40	3	3			◎														
フロンサイドSC	他	29	*c	1										◎				◎		◎	
フロンサイド粉	他	29	*a	1										◎			◎				

ハクサイ

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用回数	使用条数	べと病	白さ病	白斑病	菌核病	黒斑病	炭疽病	根こぶ病	根くびれ	ピシウム腐敗病	黄化病	苗木枯病	尻腐病	黒斑細菌病	軟腐病	黒腐病	
ライメイFL	他	21		7	4	◎	◎														
ランマンFL	他	21		3 14	4 1	◎	◎					◎		◎							
シグナムWDG	Q○I・アミド	11・7		7	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎										
アミスターオブティFL	Q○I・他	11・M5		7	2	◎	◎	◎	◎												
ジャストフィットFL	アミド・他	43・40		7	3	◎	◎														
フォリオゴールドFL	アミド・他	4・M5		7	2	◎	◎						◎								
ベジセイバーFL	アミド・他	7・M5		7	2	◎	◎	◎	◎	◎											
ダコレート水	ベンゾイミダゾール・他	1・M5		7	2	◎			◎	◎											
リドミルゴールドMZ顆水	有機硫黄・アミド	M3・4		30	1	◎								◎							
シトラノFL	有機銅・他	M1・M5		30	2	◎		◎													◎
ゾーベックエンカンティアSE	他・Q○I	49・11		14	2	◎															
ホライズンDF	他・Q○I	27・11		14	3	◎	◎														
カセット水	他・抗生物質	31・24		21	2														◎	◎	
カーゼートPZ水	他・有機硫黄	27・M3		30	1	◎															
カンパネラ水 ベネセット水	他・有機硫黄	40・M3		30	1	◎															
ナレート水	他・有機銅	31・M1		30	3	◎		◎	◎												◎
ソタールWDG	他・有機リン	31・14		14	3												◎				◎
カーニバル水	他・他	40・M5		7	2	◎		◎	◎												
ドーシャスFL	他・他	21・M5		7	2	◎	◎	◎	◎												
ブリザード水	他・他	27・M5		14	2	◎															
プロボーズ顆水	他・他	40・M5		7	2	◎	◎	◎	◎												

注:花芯ハクサイは農薬取締法上はサントウサイ…非結球アブラナ科葉菜類の項を参照のこと

\*a:播種又は定植前 \*b:定植前日～当日 \*c:定植前 \*d:発病前～発病初期 \*e:定植時  
 \*f:育苗期後半～定植当日 ®:リンクトニア菌による病害  
 ☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

## ハクサイ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ザ ミ ウ マ チ 類	カ ブ ラ ハ バ チ 類	コ ナ ガ シ	ア オ タ バ コ ガ シ	ヨ ト ウ ム シ ウ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ネ キ リ ム シ 類	タ マ ナ ギ ン ウ ワ バ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ナ メ ク ジ 類	カ タ ツ ム リ 類	そ の 他 害 虫
サブリーナFL	B T	11A	*c	-	-				◎◎	◎												
ジャックポット顆水	B T	11A	*e	-	-				◎◎◎	◎												シ
ゼンターリ顆水	B T	11A	*c	-	-				◎◎◎	◎												
チューレックス顆水	B T	11A	*e	-	-				◎◎◎	◎												シ
スピノエース顆水	ｽﾍﾞﾉｼﾝ	5	3	3				◎◎◎	◎	◎												
スラゴ*1	天然物由来	UN	*r	-	-															◎◎		
アタブロン乳	I GR	15	7	4					◎◎	◎◎		◎◎			◎							
カスケード乳	I GR	15	7	2					◎◎	◎		◎										
ノーモルト乳	I GR	15	7	2					◎◎◎	◎		◎				◎						
ファルコンFL	I GR	18	3	2					◎	◎												
マッチ乳	I GR	15	7	3					◎◎													
マトリックFL	I GR	18	7	4								◎										
デナボン5%ベイト粒	ｶｰﾊﾞﾐｰﾄ	1A	21	3									◎	◎					コ			ダ
マイトクリーン水	殺ダニ	21A	7	2					◎													
モベントFL	殺ダニ	23	7	3																		
ネマキック粒	殺線虫	1B	*s	1			◎															セ
フェニックス顆水	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	1	3					◎◎◎◎◎	◎												
プリロツ粒	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	*m *Q	1	△	◎			◎◎					◎								
プレバソンFL 5	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	*m 1	1 3	☆				◎◎◎	◎		◎◎◎		◎								
プレバソン粒	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	*m *Q	1	△				◎◎					◎								
ベネビアOD	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	1	3		◎			◎◎◎	◎◎◎		◎◎◎		◎			◎					
ベリマークSC	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	*m	1	☆	◎			◎◎◎	◎◎◎		◎◎◎		◎◎◎								
ヨーバルFL	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28	1 *m	3 1	☆	◎			◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎	◎								シ
ディアナSC	ｽﾍﾞﾉｼﾝ	5	1	2		◎			◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	◎◎◎	ウ								
アクタラ顆溶	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A	*g 3	1 3	☆	◎																
アクタラ粒 5	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A	*g *i	1		◎			◎◎													
アドマイヤー顆水	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A	劇	7	2	◎																
アドマイヤーFL	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A	劇	7	2	◎																
アドマイヤー1粒	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A	*a	1		◎																
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A		3	2	◎											◎					
アルバリン粒 スタークル粒	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A	*a	1		◎			◎◎						◎							
ダントツ溶	ﾓﾈｺﾅｲﾄﾞ	4A		1	2	◎			◎◎													

ハ  
ク  
サイ



## ハクサイ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	アブラムシ	アザミウマ	カブラハバチ	コナガシ	アオオタマ	オオタバコガ	ヨトウム	ハスモンヨトウ	ハイマダラノメイガ	ネキリムシ	タマナギンウワバ	キスジノミハムシ	コガネムシ類	コオロギ類	ナメクジ類	カタツムリ類	その他害虫
ファインセーブFL	他	34	劇	7	2					◎◎													
ブレオFL	他	UN		7	2					◎◎◎◎													
プロフレア S C	他	30		1	3			◎◎	◎◎◎◎								◎						サ
アベイル粒	ジアミド <sup>*</sup> ・ネオチノイト <sup>*</sup>	28・4A		*m	1		◎		◎◎						◎								
キックオフ顆水	ジアミド <sup>*</sup> ・ネオチノイト <sup>*</sup>	28・4A		*p	1	☆	◎		◎◎			◎		◎									
ジュリボFL	ジアミド <sup>*</sup> ・ネオチノイト <sup>*</sup>	28・4A		*m	1	☆	◎		◎◎			◎◎◎◎		◎◎◎◎			◎						
ミネクトデュオ粒	ジアミド <sup>*</sup> ・ネオチノイト <sup>*</sup>	28・4A		*t *a *i	1		◎		◎◎◎◎					◎			◎						
ハクサップ水	ヒレスロイト <sup>*</sup> ・有機リン	3A・1B	劇	1	5		◎		◎◎◎◎			◎◎◎◎					◎						
アフームエクセラ顆水	マクロライド <sup>*</sup> ・IGR	6・15			7	3				◎◎◎◎				◎									
アクセルキングFL	他・他	21A・22B	劇	14	2		◎	ネ		◎◎			◎		◎								ナ

注：花芯ハクサイは農薬取締法上はサントウサイ…非結球アブラナ科葉菜類の項を参照のこと。

\*1: 「ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等」での登録。

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌水処理する。なお、この使用方は、土耕栽培による苗には使用できない。

△:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

▲:覆土後セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から散布する。

\*a:定植時

\*b:播種時又は定植時

\*c:発生初期(但し収穫前日まで)

\*d:播種時～生育初期

\*e:発生初期(但し結球開始前まで)

\*f:播種時

\*g:育苗期後半

\*h:定植前日～定植当日

\*i:播種前

\*k:播種時又は定植時～生育初期(但し収穫14日前まで)

\*m:育苗期後半～定植当日

\*o:定植前まで

\*p:定植前日～定植時

\*Q:育苗期後半～定植時

\*r:発生時

\*s:播種又は定植前

\*t:播種覆土後～育苗期後半

ウ:ウワバ類 ケ:ケラ コ:コオロギ サ:ダイコンサルハムシ(ダイコンハムシ)

シ:シロイチモジヨトウ セ:ネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウ ダ:ダンゴムシ

ナ:ナモグリバエ ネ:ネギアザミウマ

若:若～中齢幼虫 成:成虫

ハ  
ク  
サイ

## ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>ジマンダイセン水和剤 600倍</li> <li>ストロビーフロアブル 3000倍</li> <li>ダコニール1000(FL) 1000倍</li> <li>ランマンフロアブル 2000倍</li> <li>リドミルゴールドMZ(顆水) 1000倍</li> </ul>	<p>各種アブラナ科野菜に発生する。</p> <p>9月中旬より発生しはじめ10～11月にかけてまん延する。特に低温多湿のときに多発しやすい。</p>
白さび病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を認めたら次のいずれかの薬剤を初期に散布する。</li> <li>アミスター20フロアブル 2000倍</li> <li>ダコニール1000(FL) 1000倍</li> <li>フォリオゴールド(FL) 1000倍</li> <li>ホライズンドライフロアブル 2500倍</li> </ul>	
白斑病・黒斑病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>ジマンダイセン水和剤 600倍</li> <li>ストロビーフロアブル 3000倍</li> <li>ダコニール1000(FL) 1000倍</li> <li>ロブラール水和剤 1000～1500倍</li> </ul>	<p>いずれの病気も周年発生するが、特に晩秋から初冬にかけて雨の多い年に多発しやすい。各種アブラナ科植物に発生する。</p>
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> <li>常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。</li> <li>畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。</li> <li>石灰施用により土壌酸度を矯正する。</li> <li>定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>オラクル粉剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>全面処理 30kg/10 a</li> <li>作条処理 20kg/10 a</li> </ul> </li> <li>ネビジン粉剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>全面処理 20～30kg/10 a</li> <li>作条処理 20kg/10 a</li> </ul> </li> <li>フロンサイド粉剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>全面処理 30～40kg/10 a</li> <li>作条処理 15～20kg/10 a</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>定植前日～当日に次の薬剤をセル苗に灌注する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ランマンフロアブル△ 500倍</li> </ul> </li> </ol>	<p>各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。</p> <p>夏まき栽培で被害が大きく、夏から秋にかけて高温多雨の年に多発する。</p> <p>薬剤は表層10～15cmの土壌と十分に混合する。</p> <p>△20ℓ/セル成型育苗トレイ(30×60cm、土壌量約2.5～7ℓ)</p>

## ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
軟腐病	播種時	・低湿地での栽培をさけ、排水を良好にする。	病原細菌は茎葉の傷口から感染する。 夏～秋にかけて高温多湿の年、秋まきに多発する。台風の後には多発しやすいので、台風直後には薬剤散布を励行する。降雨直後の作業は発病を助長する。  *野菜類での登録
	生育期	1. キスジノミハムシ、コオロギその他の害虫を駆除する(害虫の項参照)。 2. 台風や強い風雨など多発が予測される場合には、次の薬剤のいずれかを予防散布する。 カセット水和剤 1000倍 キノンドーフロアブル 1000倍 ナレート水和剤 600～1000倍 Zボルドー(水)* 500倍 3. 発病株はすみやかに処分する。	
モザイク病・えそモザイク病	生育期	1. 播種後30日間寒冷紗を被覆する。 2. シルバーマルチ(ムシコン等)やマルチフィルムを用いてマルチ栽培する。 3. アブラムシ類を防除する(アブラムシ類の項参照)。 (夏から秋にかけて高温、乾燥の続く年、秋まきに多発する。マルチ栽培では高温障害に注意する)	アブラナ科野菜およびその他多くの作物、雑草などに広く発生し、アブラムシ類によって媒介される。 えそモザイク病は葉に多数のえそ(小黒点)を生じ、べと病と誤認しやすい。
アブラムシ類	播種時	・寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。	アブラムシは汁液を吸収して加害するだけでなく、ウイルス病を媒介するので、幼苗期の防除を徹底する。
	定植時	・次の薬剤を植穴に施用し、土と混ぜる。 モスピラン粒剤 1g/株	
	生育期	・生育初期は定期的に、その後は発生に応じて次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～3000倍 オルトラン水和剤 1500～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤△ 2000～4000倍	
カブラハバチ	生育期	1. 被覆により成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤△ 4000倍	ニホンカブラハバチとカブラハバチの2種が主で、春と秋に発生が多い。 △幼苗期に使用すると薬害が生じる事がある。

## ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ	定植期	1. コナガコン#を8~10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100~110m/10aまたは20cmチューブを200本/10a設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを植穴土壌混和する。 オルトラン粒剤 3~6kg/10a (1~2g/株) モスピラン粒剤 1g/株	・発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 #オオタバコガに対する登録も持つ。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタプロン乳剤 2000倍 アフーム乳剤 1000~2000倍 エスマルクDF* 1000~2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500~5000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 マッチ乳剤 2000~3000倍	抵抗性を獲得しやすいので同薬剤・同系統の薬剤を連用しない。 *野菜類での登録
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 1000~2000倍 エスマルクDF* 1000~2000倍 オルトラン水和剤 1500~2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 プレオフロアブル 1000倍	
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第ごと処分する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 1000~2000倍 オルトラン水和剤 1500倍 サブリーナフロアブル 1000倍	薬剤は葉裏に丁寧に散布する。 老熟幼虫は薬剤が効きにくい。



## ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハスモンヨトウ	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。</p> <p>2. 幼虫若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アタブロン乳剤 2000倍</p> <p>フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍</p>	春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬以降である。時に大発生となる。
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	育苗後期～定植時	<p>・次の薬剤のいずれかを処理する。</p> <p>アルバリン粒剤 植穴土壌混和 #3 3g/株</p> <p>スタークル粒剤 植穴土壌混和 #3 3g/株</p> <p>プレバソンフロアブル5セル苗等に灌注 #1、#4 100倍</p> <p>プレバソン粒剤 株元散布 #5 1g/株</p> <p>セル苗等に散布 #2、#4</p> <p>モスピラン粒剤 株元散布 #6 0.5g/株</p>	<p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り0.5ℓ。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#2セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り50g。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#3定植時</p> <p>#4育苗期後半～定植当日</p> <p>#5育苗期後半～定植時</p> <p>#6定植前日～定植当日</p>
	幼苗期	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクセルフロアブル 1000倍</p> <p>スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍</p> <p>チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍</p>	<p>夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。</p> <p>幼虫が芯部に食入してからは防除が難しいので、早期に防除する。</p> <p>*野菜類での登録</p>
ネキリムシ類		・発生量は多くないので土を調べ、幼虫を捕殺する。	
	定植時	<p>・次の薬剤を施用する。</p> <p>ダイアジノン粒剤10 3kg/10a</p>	
	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤を株元に施用する。</p> <p>デナポン5%ベイト(粒) 3～6kg/10a</p>	

## ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
タマナギン ウワバ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>アタブロン乳剤 2000倍</li> <li>プリンスフロアブル 2000倍</li> </ul>	
キスジノミ ハムシ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>発芽直後から本葉7～8葉期まで次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>アルバリン顆粒水溶剤 2000倍</li> <li>サイアノックス乳剤△(成虫) 1000～2000倍</li> <li>スタークル顆粒水溶剤 2000倍</li> <li>プリンスフロアブル 2000倍</li> </ul>	△幼苗期および結球期直前は薬害の恐れがあるため使用しない。
コオロギ類	播種後または生育初期	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の薬剤を施用する。</li> <li>ネキリエースK(粒) 3kg/10a</li> </ul>	
その他の病害虫		ヤサイゾウムシ	